

資料 5－別添 1

(提案 1)

日本学術会議の運営に関する内規（平成 17 年 10 月 4 日日本学術会議第 1 回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改 正 後	改 正 前
<p>(小委員会)</p> <p>第 16 条 <u>常置又は臨時の</u>委員会の分科会に、別に幹事会が定めるところにより、小委員会を置くことができる。</p> <p>2 小委員会の委員には、その小委員会が置かれる分科会の構成員以外の者を含めることができる。</p> <p>3 当分の間、小委員会の委員に対する手当及び旅費は支給しない。</p>	<p>(小委員会)</p> <p>第 16 条 <u>分野別</u>委員会の分科会に、別に幹事会が定めるところにより、小委員会を置くことができる。</p> <p>2 小委員会の委員には、その小委員会が置かれる分科会の構成員以外の者を含めることができる。</p> <p>3 当分の間、小委員会の委員に対する手当及び旅費は支給しない。</p>

附 則

この決定は、決定の日から施行する。

(提案2)

東日本大震災復興支援委員会運営要綱（平成23年10月5日日本学術会議第138回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改正後				改正前			
(設置) 第1 東日本大震災復興支援委員会（以下「委員会」という。）は、 <u>日本学術会議会則第16条第1項に基づく幹事会の議決により置かれる委員会として幹事会に附置する。</u> (略) (分科会等) 第4 委員会に、次の表のとおり分科会及び小委員会を置く。				(設置) 第1 東日本大震災復興支援委員会（以下「委員会」という。）は、 <u>日本学術会議会則第25条に基づく委員会として幹事会に附置する。</u> (略) (分科会) 第4 委員会に、次の表のとおり分科会を置く。			
分科会等	調査審議事項	構成	設置期限	分科会	調査審議事項	構成	設置期限
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
福島復興支援分科会	福島県ならびに関連した地域の産業と雇用復興の戦略、福島県の公民連携による災害に強いまちづくりの審議に関すること	会長及び会長の指名する副会長並びに会員又は連携会員20名以内	平成26年9月30日	福島復興支援分科会	福島県ならびに関連した地域の産業と雇用復興の戦略、福島県の公民連携による災害に強いまちづくりの審議に関すること	会長及び会長の指名する副会長並びに会員又は連携会員20名以内	平成26年9月30日
<u>被災者生活再建小委員会</u>	<u>原子力災害によって避難を余儀なくされている福島の被災地の復興と被災者の生</u>	<u>10名以内の会員、連携会員又は会員若しくは連携会員</u>	<u>平成26年9月30日</u>	<u>(新規設置)</u>			

		<u>活再建に関する課題 についての提言素案 の作成に関すること</u>	<u>以外の者</u>						
	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
	(略)				(略)				

附 則
 この決定は、決定の日から施行する。

東日本大震災復興支援委員会福島復興支援分科会
小委員会の設置について

分科会等名：被災者生活再建小委員会

1	所属委員会名	東日本大震災復興支援委員会
2	委員の構成	10名以内の会員、連携会員又は会員若しくは連携会員以外の者
3	設置目的	原子力災害によって避難を余儀なくされている福島県の被災地の復興と被災者の生活再建に関する課題について、福島県の状況に詳しい有識者を中心として委員を編成し、福島県を中心として会議を開催する等により、地元の実情を適切に反映した提言素案を作成するため。
4	審議事項	原子力災害によって避難を余儀なくされている福島県の被災地の復興と被災者の生活再建に関する課題についての提言素案の作成に関する事。
5	設置期間	時限設置 平成25年12月17日～平成26年9月30日
		常設
6	備考	※新規設置

【小委員会】

○委員の決定（新規 1 件）

（ 東日本大震災復興支援委員会 福島復興支援分科会 被災者生活再建小委員会 ）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
山川 充夫	帝京大学経済学部教授	第一部会員
千葉 悦子	福島大学行政政策学類教授	連携会員

(提案3)

【幹事会附置委員会】

○委員の決定（新規1件）

（フューチャー・アースの推進に関する委員会 持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考	推 薦
花木 啓祐	東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻教授	第三部会員	第三部
氷見山幸夫	北海道教育大学教育学部教授	第三部会員	第三部
井田 仁康	筑波大学人間系教授	連携会員	副会長
武内 和彦	東京大学サステイナビリティ学連携研究機構教授	連携会員	副会長
中静 透	東北大学大学院生命科学研究科教授	連携会員	第二部
林 良嗣	名古屋大学交通都市国際研究センター長	連携会員	副会長
宮寺 晃夫	筑波大学名誉教授	連携会員	第一部
毛利 衛	独立行政法人科学技術振興機構日本科学未来館館長	連携会員	副会長
山形 俊男	独立行政法人海洋研究開発機構横浜研究所アプリケーションラボ所長	連携会員	第三部

高レベル放射性廃棄物の処分に関するフォローアップ検討委員会設置要綱（平成 25 年 5 月 31 日第 173 回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改 正 後			改 正 前		
(略)			(略)		
(設置期限)			(設置期限)		
第 4 委員会は、平成 26 年 5 月 30 日まで置かれるものとする。			第 4 委員会は、平成 26 年 5 月 30 日まで置かれるものとする。		
(分科会)			(分科会)		
第 5 委員会に、次の表のとおり分科会を置く。			第 5 委員会に、 <u>分科会をおくことができる。</u>		
分科会	調査審議事項	構成			
<u>暫定保管に関する技術的検討分科会</u>	<u>高レベル放射性廃棄物の暫定保管に係るシナリオの想定(保管対象、保管規模、保管期間等)、シナリオに対応する暫定保管施設の形態と要求される基本技術仕様、立地条件、経済性等の検討、保管期間中の安全確保に関する検討、保管期間中に行うべきことと保管後の措置に関する検討に関すること</u>	<u>9 名以内の会員又は連携会員</u>			
<u>暫定保管と社会的合意形成に関する分科会</u>	<u>高レベル放射性廃棄物の暫定保管に関する社会的に妥当な規範的基準、議論の進め方と合意形成手続き、取り組み態勢と担当組織のあり方に関すること</u>	<u>13 名以内の会員又は連携会員</u>			

(略)	(略)
-----	-----

附 則
この決定は、決定の日から施行する。

高レベル放射性廃棄物の処分に関するフォローアップ検討委員会分科会の設置について

分科会等名：暫定保管に関する技術的検討分科会

1	所属委員会名	高レベル放射性廃棄物の処分に関するフォローアップ検討委員会
2	委員の構成	9名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	平成24年9月に取りまとめた回答「高レベル放射性廃棄物の処分について」において、高レベル放射性廃棄物(使用済核燃料と再処理後のガラス固化体の双方を想定)の暫定保管を提案したが、保管期間は数十年から数百年としており、保管の具体的技術的方法については検討を行っていなかった。そこで、本分科会では、暫定保管のシナリオ(保管対象、保管規模、保管期間等)を想定し、地上保管、浅層地下保管、深層地下保管などの様々な暫定保管の形態や、それぞれの形態に応じた施設の基本的設計概念と立地条件検討、経済的な評価、安全性に関わる課題、保管期間中に行うべきこと等について審議し、学術的に合意できる暫定保管のありようを提示する。
4	審議事項	高レベル放射性廃棄物の暫定保管に係るシナリオの想定(保管対象、保管規模、保管期間等)、シナリオに対応する暫定保管施設の形態と要求される基本技術仕様、立地条件、経済性等の検討、保管期間中の安全確保に関する検討、保管期間中に行うべきことと保管後の措置に関する検討に関すること
5	設置期間	時限設置 平成25年12月17日～平成26年5月30日
		常設
6	備考	※新規設置

高レベル放射性廃棄物の処分に関するフォローアップ検討委員会分科会の設置について

分科会等名：暫定保管と社会的合意形成に関する分科会

1	所属委員会名	高レベル放射性廃棄物の処分に関するフォローアップ検討委員会
2	委員の構成	13名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	平成24年9月に取りまとめた回答「高レベル放射性廃棄物の処分について」において、高レベル放射性廃棄物（使用済核燃料と再処理後のガラス固化体の双方を想定）の暫定保管を提案したが、その実施のためには、社会的に解決しなければならないいくつかの具体的課題が存在する。暫定保管を実施するためには、その具体的実現に際して、社会的に重視すべき規範的な基準と政策判断基準、社会的に妥当な施設の数や配置の仕方、社会的な議論の進め方と合意形成手続き、取り組み態勢と担当組織のあり方等について審議し、学術的に合意できる暫定保管のありようを提示する必要がある。平成24年9月の回答においては、これらの論点にかかわりのある「科学的自律性の確保」「負担の公平性」「多段階合意形成の手続き」などについて基本的考え方を示しているが、より具体的な次元での審議と提案を行う。
4	審議事項	高レベル放射性廃棄物の暫定保管に関する社会的に妥当な規範的基準、議論の進め方と合意形成手続き、取り組み態勢と担当組織のあり方に関すること
5	設置期間	時限設置 平成25年12月17日～平成26年5月30日
		常設
6	備考	※新規設置

【課題別委員会】

○委員の決定（新規２件）

（高レベル放射性廃棄物の処分に関するフォローアップ検討委員会 暫定保管に関する技術的検討分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考	推 薦
今田 高俊	東京工業大学大学院社会理工学研究科教授	第一部会員	第一部
山地 憲治	公益財団法人地球環境産業技術研究機構(RITE)理事・研究所長	第三部会員	第三部
柴田 徳思	公益社団法人日本アイソトープ協会常務理事	連携会員	第三部
千木良雅弘	京都大学防災研究所教授	連携会員	第三部
中西 友子	東京大学大学院農学生命科学研究科教授	連携会員	第二部

（高レベル放射性廃棄物の処分に関するフォローアップ検討委員会 暫定保管と社会的合意形成に関する分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考	推 薦
今田 高俊	東京工業大学大学院社会理工学研究科教授	第一部会員	第一部
小澤 隆一	東京慈恵会医科大学教授	連携会員	副会長
小野 耕二	名古屋大学大学院法学研究科教授	連携会員	副会長
齋藤 純一	早稲田大学政治経済学術院教授	連携会員	副会長
寺西 俊一	一橋大学大学院経済学研究科教授	連携会員	第一部
船橋 晴俊	法政大学社会学部教授	連携会員	副会長

提案５～６は提言等関係のため別添２～３を御覧ください。

提案７は別添なし



डॉ. कृष्ण लाल
अध्यक्ष

Dr. Krishan Lal
President

भारतीय राष्ट्रीय विज्ञान अकादमी
बहादुर शाह जफर मार्ग, नई दिल्ली-110 002
INDIAN NATIONAL SCIENCE ACADEMY
Bahadur Shah Zafar Marg, New Delhi-110 002

No.PR/INSA/2013
24 October 2013

Dear Prof Takashi Onishi,

As you might be aware, traditionally Indian Science Congress is one of the major science Conferences in India, which completed hundred years last year. The 101st Annual Session of Indian Science Congress has been scheduled to be held during 3-7 February 2014 at the University of Jammu, Jammu. Its focal theme is "Innovations in Science and Technology for Inclusive Development".

Science Congress is the biggest science conference in India. More than ten thousand delegates from universities, colleges and national laboratories and institutes participate. There is good number of senior and active scientists from abroad. Often several Nobel Laureates and scientists of similar level are among the key invitees. Jammu is in the State of Jammu and Kashmir and serves as its winter capital. University of Jammu has several active research and teaching departments. Jammu is well connected by air, rail and road. There are several places of touristic interest nearby. The city has several good hotels and guest houses. Details about Science Congress Session are available on the web-site: www.isc2014.in

As per tradition the Prime Minister of India inaugurates the Annual Session, which will be on the morning of 3 February 2014. The Inaugural function is followed by a Panel Discussion in which top scientists deliberate on issues of contemporary concern. The President of the forthcoming Session, Professor R. C. Sobti has invited me to organize this Panel Discussion.

I had proposed that this session may be focussed on **Role of Science, Technology and Innovation in Ensuring Sustainable Inclusive Development**. As we are aware the successes in achieving the targets set in the UN Millennium Goals are under discussion at various levels at international level. There are serious concerns about growing population, challenge of production of sufficient food and adequate nutrition for all, strategies to meet energy demands of fast growing economies, threats due to climate change, sustainable consumption and adequate infrastructure to ensure universal literacy and quality education in science. Discussions at UN level have covered Science, Technology and Innovation and Intellectual Property Rights. Earlier The Global Network of Academies (IAP) had extensive discussions on Population and

...2

-
- ☐ टेलीफोन/Tel. : 91-11-2323 5865 (Dir), 2323 5153, 2322 1931 - 2322 1950 (ई.पी.ए.बी.एक्स./EPABX)
☐ फैक्स/Fax : 91-11-2323 1095, 2323 5648 ☐ ई-मेल/E-mail : president@insa.nic.in, esoffice@insa.nic.in
 डॉ.एस.टी. रमना अध्यक्ष, पूर्व निदेशक, राष्ट्रीय भौतिक प्रयोगशाला, डॉ. के. एस. कृष्णन मार्ग, नई दिल्ली-110012
 DST-Ramanna Fellow, Former Director, National Physical Laboratory, Dr. K. S. Krishnan Marg, New Delhi-110012
☐ टेलीफोन/Tel. : 91-11-4560 9104, 4560 8513 ☐ फैक्स/Fax : +91-11-4560 9310, 4560 9104

: 2 :


Consumption (June 2012). National Science Academies have been engaged in discussions and debates. Several reports on development issues have been brought out. In March 2013 Indian National Science Academy had the privilege of hosting the G-Science Meeting-2013, a Summit of presidents of Science Academies of G-8 plus countries. After detailed deliberations and discussions during G-Science meeting and afterwards through electronic means signed statements were issued on: "Driving Sustainable Development-Role of Science, Technology and Innovation"; and "Drug Resistant Infection: A global threat to humanity". Recently, during the Second Summit of South Asian Academies at INSA these issues were discussed at length and a signed statement has been prepared.

Science academies make all efforts to provide evidence based advice to decision makers and society on issues that need detailed analysis from various angles. Science strives to create reliable evidence on all issues and help find solutions which are feasible. We are inviting several leaders in science and technology to take part in the Panel Discussion.

It gives me immense pleasure to request you to kindly participate as a member of the Panel mentioned above. The organizers will bear all costs related to the air travel and stay in India. I hope you will accept this invitation. It will also disseminate widely the fact that Science Academies are seriously working on strategies to meet the challenge of inclusive development of entire humanity.

Looking for to your acceptance at an early date and with my best regards,

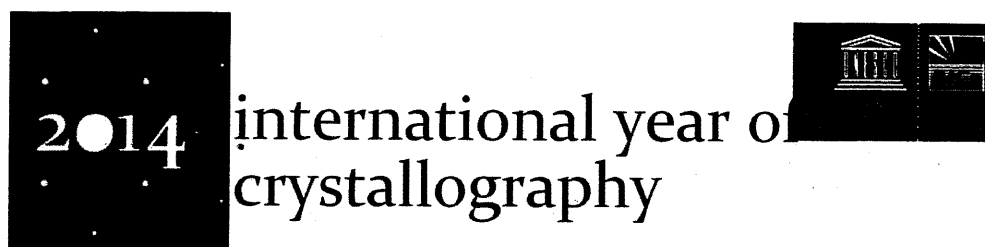
Yours sincerely,



(Krishan Lal)

Prof Takashi Onishi
President
Science Council of Japan
22-34, Roppongi 7 Chome
Minato-Ku, Tokyo 106-8555
Japan

提案 9 は別添なし

[home](#)[about](#)[events](#)[sponsors](#)[contribute](#)[learn](#)[opening ceremony](#)

Opening Ceremony, UNESCO, Paris, 20-21 January 2014

[Programme](#) [Committees](#) [Participate](#) [Sponsors](#) [Sponsorship Opportunities](#)

This is the Preliminary Programme. Visit this page often for updates.

Day 1 | 20 January

Welcome speeches

Irina Bokova, UNESCO Director General

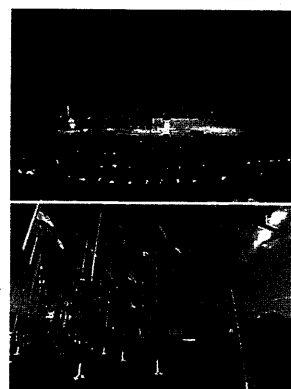
Gautam R. Desiraju, IUCr President

Minister or Ambassador of Morocco to UNESCO

Claude Lecomte, IUCr Vice President, *Initiative in Africa and IUCr-UNESCO OpenLabs*

Nicole Moreau, IUPAC Past President and Director of International Year of Chemistry 2011

Alain Fuchs, President of CNRS



Nobel laureate lecture

Brian K. Kobilka, *title to be defined*

Session: Young talented crystallographers of the World

Eight short talks from young crystallographers from all over the world will be followed by a Q&A session on Careers in Crystallography to highlight problems and successes. Younger (PhD and post-doc) crystallographers, selected by TWAS and other international scientific unions, will interact with the speakers during the Q&A session.

Moderator: Philip Ball, science writer

Speakers:

- **Africa:** Yvon Bibila (Ivory Coast), Delia Haynes (South Africa)
- **Arab countries:** Mohamed Eddaoudi (Saudi Arabia)
- **Asia:** Rumana Akther Jahan (Bangladesh), Ji-Joon Song (South Korea)
- **Latin America:** Adriana Serquis (Argentina)
- **Eastern Europe:** Marcin Nowotny (Poland)
- **Western Europe and North America:** Anders Ø. Madsen (Denmark)

Declarations of young scientists to world governments will be collected in a booklet on careers and future developments of crystallography.

Session: Crystallography for Society and the Future

The session will highlight the importance of crystallography for the development of scientific and industrial fields with a high impact on society.

Speakers:

Jenny Glusker, *Crystallography: past, present and future*

Chair and Introduction by Christian Brönnimann. Lecture sponsored by DECTRIS

David Blake & David Bish, *Crystallography in the studies of the Universe*

Philippe Walter, *Crystallography in the studies of art and historical artefacts*

Juliette Pradon, *Crystallographic research in the developing world*

Lecture sponsored by CCDC

Martijn Fransen, *Crystallography and the quality of human life*
Lecture sponsored by PANalytical

A tentative list of other possible topics is given below:

- 1) *Crystallography and Health*
- 2) *Crystallography and Materials* (including materials for energy)
- 3) *Crystallography for Planet Earth*: Agriculture, food security and ecological concerns
- 4) *Crystallography and Technology*

Exhibition on Crystallography

The exhibition will be opened at Hall Suffren in the presence of **Irina Bokova**, UNESCO Director General and **Gautam R. Desiraju**, IUCr President

Day 2 | 21 January

Session: Crystallography in the BRICS countries

Introductory Speech by Irina Bokova, UNESCO Director General

Chairs (speakers to be defined):

Brazil: Glaucius Oliva, President of CNPq

Russia: Vladimir Fortov, President of the Russian Academy of Sciences

India: Thirumalachari Ramasami, Secretary, Department of Science and Technology, Government of India

China: Chunli Bai, President of the Chinese Academy of Sciences

South Africa: Thomas Auf der Heyde, Deputy Director-General, Human Capital and Knowledge Systems, Department of Science and Technology, National Research Foundation, South Africa

Session: Crystallography, Symmetry and Art

Abdelmalek Thalal, *Symmetry in Art and Architecture of the western Islamic Golden Age*

Emil Makovicky, *Crystallography-related symmetry in the eastern Islamic world*

Peter J. Lu, *Quasicrystals and Islamic Patterns*

Session: Crystallography and peace

Samar Hasnain, *Introduction*

Sir Christopher Llewellyn-Smith, *The SESAME Project created under UNESCO auspices*

Contact: iycr2014@iucr.org

[facebook](#)

[Site map](#)

© IUCr

提案 11、提案 21 は別添なし

提案 12～20 はシンポジウム等関係のため別添 4 を御覧ください